



一つ進むということ

部長 目崎 淳

岩瀬キャンパスの桜もいつの間にかピンクの花びらが散り、木々の葉も日ごとに緑鮮やかになってきました。季節は初夏へと移ろうとしています。

新年度が始まり、一ヶ月が経とうとしています。1年生も少しずつ学校生活に慣れてきたようです。元気な声が校門、教室などから聞こえてきます。初等部では「きめ細やかさ」「ていねいさ」を大切にしたい指導を心がけ、それらを礎にして子どもたちが安心して過ごすことができるようにしています。たとえば、1年生が「安心して過ごすこと」ができてるのは6年生のおかげでもあると感じています。6年生は、毎日交代で1年生のいろいろなお世話をしてくれます。登校する時間帯には、1年生が使っている丸玄関に6年生の姿があります。靴を履き替えてから一緒に教室へ向かう姿は微笑ましく感じます。1年生は6年生のお兄さんやお姉さんが大好きです。1年生の笑顔から、安心して初等部生活を送ることができている、ということが伝わってきます。



【1年生は6年生と一緒に活動中】

6年生はよく「学校の顔」と言われます。6年生の姿を見ると、その学校の様子が分かるという意味です。今年度に入り、6年生は、1ヶ月前とは違う姿を見せ

てくれています。たとえば一学期の始業式や入学式で松本講堂に一堂に会した時のことです。松本講堂では「自分の席に着いたら静かに待つ」という約束があります。始業式や入学式の開始前、6年生はほとんど私語がありません。式が始まってもしっかりと様子が変わらず、最上級生としての立派な姿を見せてくれました。入学式当日も、6年生それぞれが任された役割を十分果たしていました。また、委員会や1年生の教室掃除等、いろいろな場面で初等部の顔として活躍を見せてくれています。先日は、登校時に門の近くで転んでしまった1年生に気づき、「私は6年生なので、1年生の教室まで連れて行きます」と私に声をかけ、その子を教室までやさしく送り届けてくれました。このような6年生が初等部全体のよきモデルとして1年間リードしてくれればと願っています。

他の学年の子どもたちも、1年生が入学してきたことでよい影響が出始めています。一つ上の2年生は、生活科の時間に1年生に「学校あんない」をしよう準備を始めています。それぞれができることを探し、行動していくことで、一歩前進できると考えています。

わたしも部長（校長）1年目です。25年前、はじめて教師になった時のことは今でも覚えています。はじめて出会った子どもたちの顔が輝いて見えました。毎日、学校に行くのがとても楽しみでした。授業も、休み時間も、子どもたちと共に過ごす中で感動を共有しながら学校生活を充実したものにしていきたいという思いは、今も同じです。

「初心忘るべからず」能楽で有名な世阿弥の言葉です。この4月に部長に就いたとき、自分の頭の中にすっと思い浮かべた言葉です。はじめて教師になった時のこと、はじめて子どもたちと出会った日の思いを、これからも大切にしながら、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思っています。